



●今日は何の日？ 国際色彩デー

今日は何の日でしょうか？今日は「春分の日」にあたり、「自然をたたえ、生物をいつくしむ。」と定められています。

そして“International Color Day” (ICD：国際色彩デー) の日でもあります。

“ICD”は、AIC（国際色彩学会）が提唱する色彩記念日で、昼と夜（光と闇）が拮抗する春分日と定められ、毎年AIC加盟各国で様々なイベントが開催されています。日本色彩学会では3月20日の13時より第7回目となるICDが開催されます（日本色彩学会Webサイトより）。

(<https://color-science.jp/ICD2025/>)

ちなみに日本には、1月6日に「カラーの日」があり、一般社団法人・ビジネスカラー検定協会によって制定されました。語呂合わせにより、覚えやすいかもしれません。

いち個人としましては、“ICD”が「色の日」よりも浸透して欲しいと密かに願っております。そのため何かを仕掛けてみたい気持ちもあり、色彩教材研究会が、色彩文化についても守備範囲であるのならば、何かしらのイベントを企画して、ICDの存在を日本全国に知らしめることができそうな感じがします。 (吉澤陽介 主査より：034)

●「色即是空」とは

仏教のお経に「摩訶般若波羅蜜多心経」という有名な短いお経がある。

その始めの方に、「色不異空 空不異色 色即是空 空即是色 受想行識 亦復如是」という文章が出てくる。

色彩を対象にして研究をしている色彩学会員にとって、理解しておかなければならない一文と思われる。

「色は実態のない空なるものであり、実態のない空なるものは色である。」「色は実態のないものであり、実態のないものは色である。」ここで色は物質的な現象を指しており、物質的現象とともにすべての存在を構成している「受想行識」という人間の感覚、イメージ、心の動きも、さらに知識も、物質的現象である色の場合と全く同じと説いている。

目の前に、赤い椿の花が咲いているとしよう。その赤という色が無くなったら、花の存在も無くなると考えると、色は色即是空と言える。

仏説では、「色」を単なる色彩という解釈ではなく、物質的な現象全体と捉えており、しかもそれらの実体が無いことを認識することにより苦悩や災いから超越できるとした。

(永田泰弘)

●大辞泉ひろいよみ 77ーこ

光角：こうかく。物体の一点と両眼とを結ぶ直線がなす角。この角度が大きいほど物体は近くにあると判断される。

光覚：こうかく。光の刺激に対する感覚。一般に光の強弱（白黒）を認識する感覚をいうが、色覚を含める場合もある。光感覚。

光学：光の現象・性質を研究する物理学の一分野。幾何光学・物理光学・分光光学など。

黄卷：こうかん。昔、中国で、紙に虫がつくのを防ぐため、黄檗の葉で紙を黄色に染めたところから、書物のこと。

紅顔：こうがん。年が若く血色のよい顔。

紅玉：こうぎょく。ルビーのこと。若く、肌がつやつやして血色のよいこと。また、美しい容貌のたとえ。

紅裾：こうくん。紅色の着物の裾。美人。また、芸妓。

紅閨：こうけい。婦人の寝室。

黄経：こうけい。黄道座標の経度。春分点を零度として東回りに三六〇度まで測る。

虹蜺：こうげい。(竜の一種と考え、雄を虹、雌を蜺としたところから)にじ。

光源：光を出すもと。太陽や電球。

黄口児：こうこうじ。年が若く、経験や知識などが足りない者。青二才。 (永田泰弘)